

宿縁

九月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六一

善人正機は人間の尺度 悪人正機は仏様の尺度



コロナ！コロナ！コロナ！コロナ！で春は去り夏は去って、秋になりました。いつこうに新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、不測の事態に限界を感じはじめてきています。

皆さまにはいかがお過ごしですか？

これまでの何気なく流れていた日常がどんなにありがたいことであつたかを思わずにいられません。

私たちはこの世に誕生して以来、日々生命を維持していられるのは地球の大気の成分

の中を呼吸できていられるからです。こちらから一つも頼んだこともないのに夜も昼も休みなく働いている生命の不思議に頭が下がります。忘れていましたが小学校の授業で次のように教わりましたよね。

地球の大気(空気)は、約80%の窒素と約20%の酸素。それにわずかな二酸化炭素などがまじり合っていてきています。人間の体は、一つの工場にたとえることができます。この工場で、人間は自分の体を動かすエネルギーをいつもつくっているのです。エネルギーをつくるための材料はいろいろ必要ですが、その中でも絶対になくてはならないものがブドウ糖と酸素です。ブドウ糖というのは体の中で食べ物からつくられます。一方酸素は体の中でつくることができないため、空気の中から呼吸によって体の中に取り入れなければならないけません。ブドウ糖は、体の中に少しはためておくことができず、ですから何日か食べなくても死ぬことはありません。しかし、酸素の方はためておくことができず、だから、いつも呼吸をして酸素を体に取り入れないと、人間はすぐに死んでしまうのです。水にもぐるときに息を止めていても少しは平気です。あれ

は肺の中にとった空気からほんの少しの間だけ酸素を取り入れていることができるからです。

教わったはずの知識はいつの間にか忘れてしまつていても人間は生きていられませんが、他の生き物と違って生きていく上の悩みや苦しさがいつもつきまといまふ。

何故なのでしょう？

その原因にあるのは、人間は万物の霊長であるという慢心です。常に自分中心の見方考え方をそれで良しとするところに物事の判断を誤らせています。そこに気づくのは、人間「私」のなかにありません。人間(私)の尺度は時により場によって変わつてしまひます。自分流にしか見えない私の姿は実は本当の姿をいつも見失つていふということ。仏教の教えを通して初めて人間(私)とは何であるのかに気づかされるのです。

仏教は、あくまで人間であることの意味を知らせる鏡です。熟成とはなんでも知り尽くして偉くなることではありません。知れば知るほど本当のことが何も知らなかつたという愚かさの自覚です。

どんなに頭がよい東大王でも、権力と地位を上り詰めた総理大臣でも、大金持ちでも、自分の真の姿を知らせる真理に出遇わなければさまざま煩悩から離れることができず、結果は空しい人生で終わるしかありません。

他の生き物は与えられた環境をただ生きていくだけですから、大きくしようとか、偉くなるうとか、対比をすることをしません。それぞれが与えられた生き方をしているだ

けですから人間のような悩みや苦しみはないでしょう。

人間はそうはいきません。煩惱というものがその身に満ち満ちているので「欲は多く、怒り・うらやみ・ねたむ心もやむことなく湧いて、いのちの終わるときまで、とどまらず・消えず・たえぬのである」と、親鸞聖人は教えられます。

煩惱とは、身を煩わせ、こころを悩ませることですが、人間の知能はその原因を突き止める、そこから離脱しようとする道を探ることができません。しかしそこに生ずる思いは、悪を廃し善をなすという「断悪修善」の道です。「やればできる」、「努力あるのみ」との考え方には大きな慢心と他を傷つけるという落とし穴があることを気づかせるのが真の仏教です。

仏教を軽視する現代の世相は「する・できる」を基本とする「善人正機」の発想です。ここには、うぬぼれと他を排除する差別を常に生み出すとがあります。

仏教は、あらゆるいのちは、ただそこに存在していることをありのままに認めていく眼差しを教えます。

「善人正機」とは、自らが迷いから脱するすべを知らずにもがき苦しむわれら(悪人)こそ、救いのめあて(正機)だと仏の側から名指しされた言葉です。

それは同時に救われがたき身のわれらが「すでに仏の光の中に撰(おさ)め取られている」確かさを、南無阿弥陀仏の名号のいわれを聞くことによつて肯かされた安心の世

【寺灯雑記】

○「子どもたちの笑顔のために募金」

ユニセフの報告書によると、「5・6秒に1人の割合で、幼い子どもたちが飢えによって5歳になる前に亡くなっている」そうで、世界の貧困問題は深刻さを増しています。一方、日本でも貧困問題は存在し、特に社会的に弱い立場にある高齢者や子供たちがその影響を強く受けています。

このような現状を受け、浄土真宗本願寺派では、重点プロジェクトとして「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace」子どもたちを育むために」の言葉を掲げ、実践的活動を進めています。

その一環として国内外で悲しみ苦しんでいる子どもたちへの支援をするための「子どもたちの笑顔のために募金」を二〇一八年より立ち上げ、中原寺においても募金箱を設置してまいりました。

このたび、募金総額一六、五九四円を本山に送金致しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

○猛暑のなか、孟蘭盆会法要を勤修

今年も日本列島は猛暑に見舞われ、さらにコロナウイルスのためにマスクの着用を強いられる例年以上に厳しい夏となりました。

そのような中、コロナウイルス感染拡大以降はじめてとなる法要、孟蘭盆会法要並びに全戦没者追悼法要をお勤め致しました。

ウイルス感染対策として、入り口にてアルコール消毒、座席の消毒と間隔の確保、法要中の換気などを施しました。

ご講師の櫻井大雄師にはマウスガードを

着用いただき、お盆の由来や意義などお話しいただきました。

【折々のことば 「お彼岸」】

彼岸とは、念仏の教えをいただいたものが、いのち終えて生まれていくさとの世界。仏となった懐かしい方々がおられる、阿弥陀如来の西方浄土のことである。

西の岸の上に人ありて

喚（よ）ばひ（い）ていは（わ）く

なんぢ一心正念にしてただちに來れわれよくなんぢを護らん

阿弥陀如来は、「必ず救う、われにまかせよ」と、西の岸よりよびかけておられる。如来のよび声は、南無阿弥陀仏の名号となつて、今この私に届いている。

如来に抱かれ、先に浄土に生まれた方々に導かれて、彼岸へと続く一つの道、念仏の道を歩むのである。

【仏教語講座 「未曾有」(みぞう)】

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界の感染者は1、500万人を超えました。私たちの生活も大きな変化を強いられ、私たちが「未曾有(みぞう)の危機」「未曾有のコロナ不況」などといわれています。

この「未曾有」は、「いまだかつて起こったことがない」という意味ですね。

未曾有は、サンスクリット語で「アドウブタ」といいます。

『仏教語大辞典』によると、この語はインドの戯曲論や美学書において、詩における風味・情緒の一つとして「びつくりした」というほどの意味の言葉であったが、漢文に翻訳した者は語源解釈に従って、「未(いま)だ曾(かつ)て有らざる」という意味で訳出したのだそうです。つまり、未曾有は漢訳仏典の造語だったというのです。

『新仏教語散歩』には、未曾有は「殊勝(しゆしょう)へ(ことにすぐれた)」とも訳出されるように、すばらしいことを形容し、めでたいことを修飾する言葉で、不吉な、悪しきことには用いないのが、もとの使い方といえます。

「未曾有の法」は「未だ曾てなかつたほどのすばらしい真理」の意味です。

「未曾有の惨事」「未曾有の悪事」が、起こらないことを願うばかりです。(大乘7月号より転載)

【法座・行事の案内】

○婦人会法座(正信偈を学ぶ)

*九月五日(土) 午後一時

讚寿の会は中止となり、平常時の法座となります。開始時間にご注意ください。

○壮年会法座

*九月五日(土) 午後三時三〇分

法話「九月の法語カレンダーのことば」
講師・住職

開始時間を変更いたしましたので、ご注意ください。

◇秋季彼岸会法要修行

*九月二十二日(火・祝) 午後一時

おつとめ・讚仏偈

講師・佐々木閑師(京都花園大学教授)

「ブツダに学ぶ

く新しい時代の生きかた」

佐々木先生は二〇一八年の文化講演会にご出講いただき、お釈迦さまの説かれたみ教えをとて分り易く、丁寧におはなしいただき大好評でした。

どうぞ再びのご縁に普段、仏教を聞く機会のない方にもお声をかけて、是非お聞きになってください。お待ちしております。

○教行信証を学ぶ(行文類―正信偈)

*九月二十六日(土) 午後二時

講師・前住職

○婦人会法座(正信偈を学ぶ)

*十月三日(土) 午後一時

※十月十七日(土)に開催予定だった文化講演会は本年は中止いたします。

※各法座・行事にご参加の際はマスクの着用をお願いいたします。

【九月の掲示板のことば】

押んで助けて貰うのは
ニセの信心
押まれている自分に気づくのが
マコトの信心

※「YouTube 中原寺」で検索

前住職が10分法話を配信中です。